

風杯型指示風速計

OT-803

取扱説明書

## 風杯型指示風速計取扱説明書

OT-803

## ◎構成

1. 風杯型風速発信器 (W21) 1台
2. 風速指示器 (WST3M4) 1台

## ◎性能

## 1. 発信器

- 1) 風速検出部 風杯-交流発電機 (4極 無鉄心)
- 2) 起動風速 1.5m/s 以下
- 3) 耐風速 90m/s
- 4) 風速出力 40m/s にて AC16V  $\pm 0.5V$   
出力インピーダンス約 2K $\Omega$

## 2. 指示器

- 1) 型式 整流型電圧計 卓上型ケース入り
- 2) 目盛 30m/s 1目 1m/s
- 3) 精度 10m/s 以下  $\pm 0.5m/s$  以内  
10m/s 以下  $\pm 5\%$  以内

## ◎結線

## 1. 発信器

発信器はすでに短いコードが付いています。これの白と黒色の線が発電機出力で指示器に接続します。

## 2. 指示器 (指示器図面 810-062 参照)

底面にある 3mm のねじを外すと後面の蓋が外れます。図中に示す様に指示器にコードを接続して下さい。交流入力ですから属性はありません。

## ◎保 守

## 1. 発信器

本器は、長時間注油せずに使用できますが、年に一度以上次の点検をして下さい。

- 1) 風が弱い時 (2m/s 位) 風杯がスムーズに回っているか見て下さい。または無風時に手で回し停止するまで観察して、重い様な場合は注油するかボールベアリングを交換する必要があります。注油またはボールベアリングを交換しなければならない場合は、当社まで御連絡下さい。
- 2) 5年に一度、精度検査またはオーバーホールに出して下さい。

## 2. 指示器

- 1) 特に保守の必要はありません。
- 2) 5年に一度、発信器と共に精度検査またはオーバーホールに出して下さい。

## ◎故障の調査

風杯が回っているのに、指示器の針が振れない場合はテスターのレンジを 10～50V にして、指示器の入力端子 (1 と 2) を当てる。

1. 電圧がない場合は、電線の接続不良か発信器の故障。

発信器の接続部をテスターで当り出力があれば接続電線の断線または接続不良。

出力がなければ発信器の故障。

2. 指示器端子に電圧が出ていれば指示器内部の故障という事になります。

\* 以上を調査の上で当社まで御連絡ください。

## ◎添付図面

800-083

810-062